

# 2024年度 宇宙セミナー開催報告

2024年11月23日(土)、ヒューストン日本語補習校にてJAXA宇宙セミナーを開催しましたので、その内容を報告します。

今年度の宇宙セミナーは、今年度の10月に新しくJAXA宇宙飛行士に認定された諏訪 理(すわ まこと)宇宙飛行士と米田(よねだ)あゆ宇宙飛行士が登場し、宇宙飛行士として認定されるためにどのようなことを行ってきたか、その体験について紹介しました。(諏訪飛行士、米田飛行士のプロフィールについては、こちらのJAXA公式サイトをご参考ください。 [諏訪 理 宇宙飛行士 | JAXA 有人宇宙技術部門](#)  
[米田 あゆ 宇宙飛行士 | JAXA 有人宇宙技術部門](#))



▲写真:会場風景(講演)

初めに、商工会企画調査委員長の島田 英樹(しまだ ひでき)様よりご挨拶を頂いたのち、諏訪飛行士、米田飛行士が壇上に登場し、二人による息の合った楽しい掛け合いを交えながら、宇宙飛行士として認定されるまでに行ってきた訓練からいくつかをピックアップして紹介しました。飛行機を自由落下させることで無重力を作り出し、無重力状態での体の動かし方を訓練する「無重力体感訓練」や、宇宙から地球に帰還した際に、予定と異なる地点に着陸した場合の対応を訓練する「サバイバル技術訓練」など、宇宙飛行士ならではの訓練についてご本人たちの感想とともに学ぶことが出来る貴重な機会になったと思います。また、これらの厳しい訓練を仲間と助け合いながら乗り越えてきたエピソードなど、宇宙飛行士としての心の在り方についても紹介しました。特に来場された児童・生徒にとって、未知への挑戦やチームワークの大切さについて考えるきっかけになっていたら幸いです。

講演後には会場でのQ&Aセッションを行いました。短い時間でしたが、小学生から大人まで、幅広い年代の方から面白く、かつバラエティに富んだ質問をいただきました。印象的だった質疑を以下に紹介します。

Q:これから宇宙でどんなミッションをしたいですか？

A:(米田) (医者というバックグラウンドを踏まえ、) 医学の観点から地球上で困っている人たちの助けになるような実験がしたい。  
(諏訪) 将来の月探査、火星探査の発展に貢献できるようなミッションがしたい。

Q: 訓練の中で怖かったことはありますか？

A:(諏訪) 怖いと思っていたことを、怖くないようにするために行うのが訓練だと思う。そういう意味で怖かったことは無かった。

Q: 訓練の中で大変だったことはなんですか？

A:(諏訪) (国際宇宙ステーションでのミッションにはロシア語が必要なので)ロシア語の勉強が大変だった。大変だけど、覚えたロシア語でコミュニケーションが取れると嬉しい。

(米田) サバイバル訓練が大変だった。仲間とともに自分の限界を超えて頑張ることが出来た。

Q:前職の経験のなかで、宇宙飛行士の訓練に役立ったことはありますか？

A:(諏訪) 前職(世界銀行)は国際的な仕事だったゆえに、多様な国の人たちと仲良く仕事を進めていく必要があった。まさにいま、多様な国の宇宙飛行士と関わっており、役立っている。

(米田) 前職(医者)は、チームで患者を救う仕事だった。チームワークがあるからこそ、大きな仕事ができることを実感しており、それは宇宙飛行士にも共通していると思う。

Q:宇宙飛行士の訓練が、プライベートに役立っていることはありますか？

A:(諏訪) 宇宙飛行士は地上から言葉だけで指示を受けるので、コミュニケーションが大事。日頃から、きちんと言葉を伝える意識が付いたように思う。

(米田) 宇宙飛行士の訓練は新しく覚えることが多い。難しいと思うこともあるが、見方を変えると面白い一面もある。新しいことを上手に学ぶ勉強のスタイルが身に付いた。



▲写真:会場風景(質疑応答)

Q:宇宙人はいるといいますか？(質問が出た瞬間、会場大盛り上がり！)

A:(諏訪/米田)これだけ広い宇宙で、宇宙人がいないと断言するのは難しいと思う。今の我々の技術レベルでは認識できていないだけなのかもしれない。詳しいことは言ってはいけないことになっている！(笑)

セミナーの最後に、ヒューストン日本語補習校代表の有田真央子(ありた まおこ)さんと筋(あざみ)ここなさんより、両宇宙飛行士に向け、講演の感想と温かいメッセージを頂きました。本セミナーが来場された皆さまにとって宇宙への関心を深める機会となり、またJAXA宇宙飛行士の活動に興味を持っていただける機会になったのであれば幸いです。

来年度も引き続き、宇宙セミナーの開催を予定しておりますのでお楽しみにしてください！

(JAXAヒューストン駐在員事務所 田口 竜也)